

入学を祝して



入学を祝して

歯学部長 前田 健康

平成21年度新入生の皆さん、厳しい受験競争を勝ち抜いて、新潟大学歯学部に入學おめでとうございます。昭和40（1965）年に設立された新潟大学歯学部は、歯学科に加え、歯科衛生士と社会福祉士のダブルライセンスを取得可能な口腔生命福祉学科を有する国立大学歯学部であります。我々教員ともに、日々進歩する歯科医学、口腔保健医療・福祉を学び、新潟大学歯学部の新しい歴史を築いていきましょう。

新潟大学歯学部では、包括的医療を行うことのできる有能かつ感性豊かな歯科医師の育成、歯科医学発展のために指導的な人材および保健・医療・福祉に貢献する専門職業人の育成を教育目標としています。この教育目標達成するために、さまざまな工夫を凝らしたカリキュラムが編成されています。特に、新潟大学歯学部では「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としています。君たちがこれから新潟大学歯学部で学ぶ講義、実習の内容は社会に出てからのスタートラインに立つための内容でしかありません。歯科医療人、口腔保健・福祉医療人として長い人生を過ごしていくには、日々進歩する学問を常に修得する必要があります。そのためには生涯学習という観点が必要です。生涯学習のためには、自ら学んでいくという態度が不可欠です。医療・福祉を目指すものにとっては、問題を発見し、自ら学習し、問題を解決していくという学習形態（問題発見・解決型学習）が望まれます。本学部では早くから Problem-based learning（PBL）という学習方法を導入しています。このPBLでは教員は学習者の補助者にすぎず、学習の主体は学生であるという概念で、学習が進んでいきます。この教育手法の主眼が「学生自身が自ら学ぶ」ということにあるのはいうま

でもありません。新潟大学歯学部の教育の主役は、教員ではなくて、君たち、学生諸君です。

新潟大学歯学部では早くから教育改善を進め、平成18年には文部科学省事業「特色ある大学教育改革支援プログラム」に採択され、全国歯科大学・歯学部のモデルケースとして高い評価を受けています。さらに、大学院教育レベルでは平成17年度「魅力ある大学院教育イニシアチブ」、平成20年度には「大学院教育改革支援プログラム」に採択され、学部レベルから大学院レベルまで、高い教育の質を担保し続けています。研究面の評価の一つとして科学研究費補助金の採択があげられますが、この補助金の採択率も非常に高く、本学ではトップに位置しており、研究能力の高い教員が君たちの学習支援にあたります。

本年12月末には、新たな実習設備が導入・整備されることとなっており、学生諸君の技能教育に資することとなっています。また、各種教材の整備・充実にも努めており、君たちへの高い学習効果をあげるため、環境整備にも努めています。これらを積極的に活用するようにしてください。本学部の教育改善については高い評価を受け、さらなる教育改善を進めていますが、まだまだ不十分です。また、個別空調設備、視聴覚設備の設置に代表される教育環境の充実を我々教員の視線で行っていますが、やはりこのような環境整備も学生諸君の要望、改善策が新潟大学歯学部をさらによりよい学部としていく基盤となります。学生諸君の立場からみたハード面、ソフト面の改善策を我々教員に積極的に提言してください。そして、さらなる教育改善をともに進めていきましょう。

昨今、歯科医師過剰が叫ばれ、歯科医療の前途を悲観するような報道がなされていますが、君た

ちが歯学部を卒業し、一人前の歯科医療従事者になる10年後は、歯科医療、口腔医療・福祉の重要性はますます増すばかりでなく、種々の統計データから鑑みれば、現在より約2万人の歯科医師がリタイヤすることが想像されており、この分野の人材の不足が早くも懸念されています。短絡的にものをみるのではなく、10年、20年といったロングスパンで人生設計を行い、この柔軟な頭脳をもつこの時期に知識・技能・態度を身につけ、新潟大学歯学部を旅立って欲しいものです。

教育の話ばかり致しましたが、20代前後のこの時期、勉強ばかりだけでなく、クラブ活動、ボランティア活動などさまざまな社会経験をし、歯学部以外にも多くの友人を作り、歯科医療人である前に、教養のある社会人となるよう人間性を磨いてください。そして、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した学生生活を過ごし、卒業時に、平成21年度入学生全員でまた朱鷺メッセで喜びを分かち合いたいものです。



新潟大学歯学部入学おめでとう

新潟大学医歯学総合病院副院長 齊 藤 力

難関を突破され歯学部歯学科ならびに口腔生命福祉学科に入学された新入生の皆さん、入学おめでとうございます。未来の歯科医学、歯科医療を担うべく全国から集まってきた諸君を心より歓迎いたします。

諸君が学ぶ新潟大学のキャンパスがある新潟市は、平成19年4月1日より日本海側初の政令指定都市となりました。新潟市は日本海、信濃川に囲まれた美しい水の都であり、美味しいお米や日本海の海の幸など食の宝庫であります。新潟市長の篠田昭氏によれば、新潟市を「田園型政令市」と表現するのだそうです。しかしインターネット等の情報網の発達により日本の何処にいても情報量の地域格差はもはや無いに等しく、まさに学ぶには申し分のない環境と思います。

諸君の大多数は歯科医師、歯科衛生士と社会福祉士などのプロフェッショナルになることを希望し、6年後あるいは4年後にそれぞれのライセンスを得ることを目標としていることと思います。歯学部は学部の特性上、職業訓練的なイメージが強いことは事実ですが、医学や歯学という生命科学を探究する場でもあります。近年の医学、歯学の発達は急速で、諸君に求められる情報量は増大の一途をたどっており、とても暗記することだけでは対応しきれません。科学的発想を身につけることこそが最も大事であると思います。でも大丈夫、先輩を見てください。さりげなく？進級して卒業しているでしょう。新潟大学歯学部は、検討に検討を重ねた教育カリキュラムを用意していますので心配はいりません。

諸君の臨床教育の場となる新潟大学医歯学総合病院は、医学・歯科医学が相互に連携した全人的医療、臨床教育、研究の実践を目指して平成15年に従来の医学部附属病院と歯学部附属病院を統合して誕生しました。学生時代は早期臨床実習が1年次よりおこなわれますので、早い段階から本院

で学ぶ機会があります。また、より臨床に即した教育として歯学科では平成18年度から臨床能力を客観的に評価するために開発された客観的臨床能力試験(OSCE)を開始しています。さらに新潟大学歯学部の教育の特徴としては、学生が教員の指導のもとに実際に患者の治療に参加することがあげられます。全国的に臨床実習が見学中心になっている大学が多いという状況をみると、とても恵まれた環境にあるといえます。

もちろん大学生活が知識や技術の習得に偏ってはいけません。歯学部は定員が少なく、また、2年時には五十嵐キャンパスから旭町キャンパスに移動となるため、とても狭いコミュニティーになりがちです。部活動やサークル活動あるいは地域活動を通して多くの人と交流することで幅広い視野を持つことができ、自分の人間性を磨くことにつながると思います。学生時代はなかなか地域の方と交流する機会が少ないかもしれませんが、新潟は“人”がいいですよ。新潟県人の“人の良さ”を実感できる私のお勧めスポットは白山の朝市です。白山の朝市は旭町キャンパスから程近い白山浦という場所で毎朝行われています。地元のおじちゃんやおばちゃんが新鮮な野菜や果物を世間話しながら売っています。良い医療人と聞いてどのような人を想像しますか？「高度な技術や知識の習得」は医療人に求められる当然の義務であり、それに加えて私たちに必要なのは「人間としての暖かさ」です。新潟は現在、NHK大河ドラマ「天地人」の舞台として話題ですが、主人公の直江兼続のように「愛」の心をもった人間になってもらいたいと思います。未来の歯科医学、歯科医療を担うのは諸君です。諸君のやる気にこたえられるよう、病院は最大限の努力を惜しみません。諸君が、新潟県の鳥・トキのように、夢に向かって大きく羽ばたくのを楽しみにしています。